



爪

Aブロック作品と講評
WWW.COLUMNLAND.NET

爪を切るということ

爪は社会に似ている。

新しいものが出てきては、古いものは切り捨てられる。

ただ一つ、違うこと。

それは、社会ではいくら古くたって、頑張り次第でいくらでも生き残れるってこと。

簡単！爪の垢の煎じ方

※爪の垢…爪と指の間にたまっている垢

優れた人の爪の垢を煎じて飲んで

その人にあやかろう！

材料（一人分）

・爪の垢 10 g

・水 500 c c

・香料適量

① 優れた人から爪の垢をもらう

POINT…直接もらおうとすると気味悪がられることがある。寝て

いる時にもらうのが良い。

② 水 500 c c を沸騰させ、爪の垢を少量ずつ加えてよく混ぜる

③ 布でこした後、お好みで香料を加えて出来上がり

一言コメント…良薬は鼻に臭し

グリーンネイル

つけ爪と爪の間にカビが生える病気

私は指先まで飾り立てて

自分を美しく見せようとして

自分をよく見せようと夢中になるうちに

本当の自分はカビでボロボロになっていた

しばらく自分を飾り立てるのはやめようかな

ありのままの貧相な自分も

きっとそこまで悪くない

付け爪

どんな夢見てるの？

どんなこと考えてるの？

私はいつも、あなたのことを想ってる

あなたのことを考えると

胸が張り裂けそうになるくらい高鳴って

何も考えられなくなるの

何も手につかなくなるの

私、あなたに恋、します

こんなに、好きなのに

あなたの隣にはいつもあの子

あの子と楽しそうに笑っているあなたを見ると

すごく胸がしめつけられる

なんで私じゃないの？

なんであの子なの？

あの子になりたい

何が足りないの？

何が負けているの？

誰より、好きなのに…

私、あなたのことが、好き

もつ、どうにもならないの

私の気持ちに気付いてくれないから

あなたのためにきれいに飾った

右手薬指の、付け爪

そっとポケットに忍ばせます

あの子が気付いてしまえばいい

ケンカになってしまえばいい

そんな私、ずるい女ですか？

『こゝろわずや』

古風といえは聞こえはいいが、要は今にも崩れそうな店の中。

俺は建物以上に怪しげな男の話を聞いていた。

「こゝろはなんの店なんだ？」

「ええ、それはそれは。表の看板にございますように、諺に因んだ商品を売っておりますお店でございます。諺に因んだ商品ならばなんでもございまして、例えば降りたら必ず喧嘩別れするという『只越回舟スワンボート』や絶対にうまく点眼する『二階の目薬』、対動物用護身装備『歩大スティック』などなどございまして、ただ——」

「おーけい、わかったわかった、説明はもうそのへんでいいから。」

外見だけじゃなくて言ってることも胡散臭い……こんな怪しい店に立ち寄ってしまったのは俺が昨日、デイトレードで失敗したせいでイライラしているからだろう。くそっ、あの情報商材め。絶対にうまくいくって言ってたじゃねーか。

「つまり、俺が欲しそうなものは必ず用意できるんだろ？」

「諺の力は偉大でして、大抵のことは、逆の内容でもカバーするほどですの。

まあ……そういうことになりますね。」

「それなら話は簡単だ。俺が株で勝てるようになる品を……」

いや、まてようどうせ何でもあるんだつたら、もつと根本的に……

「……いや、完璧な売買ができるくらい、俺の頭が天才になる品をくれ！」

「ふうむ……頭が良くなる薬ということがありますか……ふむ。」

店主は一瞬思案気な顔をした後、何か引き出しをこそこそとして小瓶を取り出し、中に入っていた粉末を薬包紙に包んだ。粉末は、見るも鮮やかな赤色だった。

「ええと……これは『能ある鷹の爪の垢』という品でして……煎じて飲むと効果靨面、みるみる頭が冴えわたるという……」

「ありがとうございます！」

長引きそうな話を打ち切り、俺は品を受け取った。くひひ、いい買い物をしたぜ！

「——さて、確か湯に溶かせばいいんだつたよな。」

目の前には鮮やかに真つ赤な液体が湯気を立てている。これは効きそうだ！

「これで俺様は天才だ！」

俺はこの天才液を男らしく一気に飲み干す。ぐびっ、ゴクリッ！

「＃％\$！☆∏∏∏∏A！……うっうっ……！！！」

「なんでもございますが——ただし、『馬鹿につける薬』だけは置いていないのでございます。いやはや、まさか本当に飲まないとは思うのですかねえ。」

ずっと僕と君とは一緒だった…

でも、君はもう手の届かないところに行ってしまったね

どんなに手を伸ばしても

いつも大きな壁が僕らの間に立ちはだかる

一体、どうすればいいんだ…

絶望の中、一つの聲が響き渡る

「あなた、ちよつとは痩せなさいよ！　そのお腹。」

「爪切り」

女王様と奴隷部下

私は上司に呼び出され、喫茶店にいた。待ち合わせの時間から十分が過ぎ、私はパソコンを取り出しかけてやめた。来客を知らせるベルとともに一人の女性が入ってきたからだ。彼女はプレイボーイ誌の表紙を飾るに相応しいプロポーションと、すれ違えば誰もが振り向くような美貌の持ち主である。彼女こそ、私の上司だ。

彼女が席に着くと周りから嫉妬のまなざしが注がれてくる。『美人と付き合いやがって、なんて果報者だ。不幸になってしまえ。』

……すでに私は不幸だ。そもそも彼女は魔女が鼻白むほど性格が悪いのだ。彼女が上司になってから退屈したことがない。

「待たせたわね」

そういつて、彼女は指を口に当てながらメニューを読み始めた。注文を待つて、私はうちを開いた。

「今日は何の御用ですか？」

「何って君、何のつもりで来たの？」

「それはあなたが呼び出したからでしょう。」

彼女は手を顔の前で組んで何かつぶやくとこういった。

「買物よ」

「えっ、仕事じゃないんですか？」

「何で休日に仕事しなくちゃなんないのよ！」

いや、私は仕事じゃなかったら来なかったぞ……。

彼女は指をくわえるようにしながら頼杖している。来てしまった時点で私の負けだ。

「わかりました、お供させていただきます。」

「わかればいいのよ、じゃあ、飲み終わったらいくわよ。」

そして、不意に彼女はこういった。

「今日はちよっと違うところがあるんだけど気がついた？」

一瞬の沈黙。

「わかりません」

「何でわからないのよ。」

そういつて彼女は手を差し出した。

「手ですか？」

「違うわよ、つめよ、つめ！」

よく見るとネイルが違う気がする。

「まったく、罰として今日一日奴隷だからね！」

それはいつものことだ。そういつて感情を彼女は済まし始めた。

つめ

あ、爪が割れちゃった。

最近切ってなかったからなあ。

……気になるなあ。落ち着かない。

カリ カリ カリ カリ

ん、落ち着く。

でも、まだこの辺が荒れてるなあ。

整えないと、整えないと。

カリ カリ カリ カリ

正直、この癖は治したいんだけど……

癖ってなかなか治らないよね。

カリ カリ カリ カリ

この爪を噛む感覚が好きだな。

噛みごたえあるし、味もあるんだよね。

カルシウムだからかな？

気のせいかもしれないけど、

あー、あいつまたやってるよ……。

あいつ、授業中に爪を噛むのが

もはや当たり前になってるなあ。

気になるし、汚い感じがするから

正直やめてほしいんだけど。

爪が気になるなら、せめて手でやれよ。

はー、イライラして授業に集中できん。

あいつの座り方、なんかバレないように

背中を隠してるつもりだろうけど、

宙の音が響くからすぐわかるわ。

もう、ほんとに

なにかをガリガリ削る音、それで少女は目を覚ました。
もたれかかったままの姿勢で、音のする方を見る。

そこにいたのは、一匹の白い猫だった。

模様なのか、それとも汚れているのか、背中の中分くらいが茶色い。
体は小さく、痩せている。

そんな猫が、少女がよりかかっている大きなタンスを引っ掻いている。
タンスの一番下の段には、すでに何本か白い筋が付いていた。

「ダメでしょ？勝手にそんなことしちゃ。」

少女は猫をそっと抱きあげる。猫はおとなしく少女を見つめた。

「どこから来たの？」

聞こえたのか、ぐいっと首を右の方に向ける。

こげ茶色の土壁には、おとな三人が通れるほどの大穴があいていた。
穴の近くには、壁や壊れた家具の残骸らしきものの積み上がっている。

「そうだよネ、これじゃあみんな入ってきちゃうよ。」

少女はちよっと笑った。

「ドアも、窓も、みんななくなっちゃった。残ったのは私だけ。」

少しうつむいた少女の目を、猫がのぞき込む。

はっと、少女の視線がもとに戻る。そしてまた、猫に微笑みかけた。

「キミも一人ぼっち？」

猫はじっとしたまま、しばらくしてから瞬きを二回した。

「家族がいなくてもね、私たちがしっかりしなきゃいけないんだよ？
もう、みんな終わったの。これからは私がこの家を、私たちがこの町
を建てなおすんだから！」

少女の言葉は続かない。猫も少女を見つめたまま、動かなかった。

「そうだ！」

突然、うれしそうに少女が言う。

「キミはうちのタンスに、ずいぶん立派なしるしをつけてくれたね？
責任とって、うちに住むこと！いいね？」

強引な言葉に、猫は大きく目を見開いた。

「これからキミは、私に甘えていいんだよ？だって家族なんだから！」
少女は猫を抱き締め、思いきり頬ずりをした。

猫はそっと目を閉じて、それを受け入れた。

「爪痕」

辛いのが苦手だから

あんなに一生懸命、鷹の爪をのけたのに…

ひとかけらだけ残っていて…

はあー…

ツメが甘かった…

彼女が淹れおわったコーヒーをカップに注ぐ後ろ姿を眺めながら、僕はこの彼女の部屋から出る方法について考えていた。

彼女のきれいな指先が、機嫌良くカップのふちをなぞっている。

思えば、あのとき優しくしたのが間違いだっただ。後悔が頭の中をぐるぐると巡っているのがわかる。こんな駆け引きに身を投じることになるとは、思いもよらなかった。

彼女は、病んでいる。

じっさいに病気を患っているということではない。彼女はきわめて健康だ。だが、普通ではない。普通なら、まさかこういう形で関わりを持つなんてことはない。いきなり、年頃の女の子が彼氏ではない男を部屋に呼び寄せるなんて。

昔から、僕はわりと人の顔色を伺うことで生き延びていたように思う。そのおかげで普通より物事がうまく進むこともあった。それに、女兄妹がいたからか、女の子の気持ちを読み取ることは長けていたかもしれない。あるいは、そこを突かれたと言ってもいい。つまるところ、僕の詰めが甘かったのだ。

「コーヒー、飲まないの？」

彼女が聞く。僕は何も言わない。

「帰ったら、殺すわよ」

病んでいる人間は嫌いじゃない。ただ、救おうとも思わない。そばで観察するだけの者でありたい。この時点で、僕は守りに徹するのを喫することを許していたのだ。

長い沈黙の後、僕は飲み干したカップをスツールの上において、ベッドに腰掛け直し改めて聞いた。

「ねえ、つまりこういうのは、きみにとって、浮気になるわけだ。別に僕はそのことにについては何とも思わない。相手のことなんか僕は知らない。きみは浮気についてどう思う」「結果論だわ」

「あるいは、君の場合は少なくともそうかもしれない。でも、きみだって何とも思わないということはないはずだ」

彼女は睫毛をふせ、うつむいた。黒い長い髪が耳からはらりと落ちた。

記憶の中の、切羽詰まった彼女の苦しそうな顔が頭をよぎった。まるで全てが許せないと言わんばかりに、歯を噛み締めて悔しさをにじませながら、僕の上着を爪が食い込むくらい握りしめてきたときの、やわらかな重みがリアルに蘇った。

あのときと同じ香りがして、ぐらりと視界が揺れた。彼女の小さな頭が、見下ろせばすぐの場所にあった。

「あの人はもう許せない。わたしを愛していると言いながら、わたしを傷つけ損なおうとする。あなたは違う。その逆。」

息を吸おうとして、彼女の香りで鼻腔が満たされた。彼女の小さな爪が僕の顔にそっと触れた。衣服越しに彼女の体温を感じた。そして、僕は――

矛か盾か

「爪は、手を守るためにあるんだよ」
お母さんはそうやって言った。

でも、固くて薄い爪は、傷つけるのに便利だった。

僕はわからない。

爪は、矛なのか、盾なのか。

「爪ってさ、ちょっとしたアートなんだよね」

お姉ちゃんはそうやって言った。

お姉ちゃんの爪はカラフルでキラキラしていた。

僕はわからない。

これは、自分を守るため？ 誰かに訴えるため？

「原爆の爪痕は今なお残っています」

居間のテレビはそうやって言った。

テレビには辛そうな顔をしたおじいさんが映っていた。

僕はわからない。

これも、爪なんだろうか。

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	爪を切るということ	3 pt	7 位	2 sp
		爪という小さなものと、社会という大きなもの。 全然違うスケールのを、文章の力でひょいとリンクさせてみる。そんな予想外の試みでおもしろさと深さを醸し出した今週の表紙でした。 特別賞：心のノートで賞（「じーん」ときたから） 特別賞（句読点の位置が個性的） イチオシフレーズ：「爪は社会に似ている」「それは、社会ではいくら古くたって、頑張り次第でいくらでも生き残れるってこと。」		
A02	簡単！爪の垢の煎じ方	3 pt	7 位	2 sp
		ネタ入ります。 おおまじめに煎じてみよう、そうしよう。 理科レポート風のノリで軽やかに形づくられていました。ことわざオチのおまけ付き。 あなた好みの製法をアレンジしてどうぞ。 特別賞：ユーモア欠乏賞（ボケが少ないから） 面白い賞（流れがいい）		
A03	グリーンネイル	2 pt	9 位	1 sp
		グリーンネイル。初耳の読者さんも多かったのでは？豆知識ゲットかたがた付け爪するみんな、健康に気をつけてね！のメッセージがしっかり伝わってきます。これって、お化粧品とかコンタクトとか、飾り立てるのはほどほどにね、と一般的なメッセージにも転化できそう。 特別賞：華美はカビるで賞（本当にある病気なんだ。）		
A04	付け爪	2 pt	9 位	1 sp
		このせつない思い。 たぶん実らない。じぶんでも分かってる。 でも好きで好きで、どうしても何か破壊的なことしたくなって・・・ 付け爪ひとつで、翳りのある乙女心をしっかりとらえていただきました。 特別賞：ずるいで賞		
A05	ことわざや	21 pt	1 位	1 sp
		さすが幻の一位作品（と当該セッションの覇者さんが認めた）「天戟文庫」の作者さん。呉越同舟スワンボートやら歩犬スティックやら、いろんなアイテムの凝り方がまさに職人芸の楽しさで、最多イチオシフレーズ・タイです。 で、えーとラストはどうなったのでしょうか。天才と馬鹿は紙一重ってことで馬鹿になってしまった!? カワイソス。 何はともあれ、ご自身の最短作品で、晴れて壇上奪		

		取、おめでとう!!! 特別賞：失速賞（オチが惜しい） イチオシフリーズ：「#%\$!……」 「能ある鷹の爪の垢」 「馬鹿につける薬」			
A06	爪切り	<table> <tr> <td>8 pt</td><td>4 位</td><td>0 sp</td></tr> </table> ん、何だろう？ かしこいTAさんが教えてくれました。足の爪じゃね？ なるほどねー。おなかにじゃまされて見えなくなっちゃったってことか、そっかそっか。気づけば、とてもユーモラスな光景が広がります。 「あなた、ちょっとは痩せなさいよ！ そのお腹。」	8 pt	4 位	0 sp
8 pt	4 位	0 sp			
A07	女王様と奴隷部下	<table> <tr> <td>0 pt</td><td>11 位</td><td>4 sp</td></tr> </table> 女王様のお姿や性格がありありと見えるような秀逸な描写力でした。 いわゆるツ〇デレ女王様。まあ、美人は何をしてもオッケーってことで、部下さんもうれしそうだし、このおつきあいのやりかたで良いのでは？ おしあわせに☆ 何だかやっちゃったミスタイプが注目集めて、最多特別賞&最多イチオシフリーズ・タイをゲットです。話題になれば勝ちだね。 特別賞：釘宮賞（藩内にツンデレ好きがいてめっちゃ熱弁してたから。あとこの前くぎゅ3の誕生日だったね）とkうべつ賞（kうちを開いたところナイスタイプ!!）誤字で賞（誤字の仕方がすさまじかった）電撃ゲーム小説大賞（外見パーフェクト、性格悪し、ツンデレ×ヘタレ、なのにモデル、の主人公の昨今のノベル感に感動した） イチオシフリーズ：「kうち」×3	0 pt	11 位	4 sp
0 pt	11 位	4 sp			
A08	つめ	<table> <tr> <td>8 pt</td><td>4 位</td><td>1 sp</td></tr> </table> カリカリの彼。それを見つめる彼女（たぶん）の視線。 パラレル進行で見せることで、教室ドラマが立体的に見えてきます。 ここまで鈍感な彼だと、ゴールインまでは、まだまだ遠そうですけれど。 特別賞：爪ってタンパク質で賞（爪の構成成分はタンパク質でカルシウムは少ししか入ってない） イチオシフリーズ：「カリカリカリ」	8 pt	4 位	1 sp
8 pt	4 位	1 sp			
A09	爪痕	<table> <tr> <td>14 pt</td><td>3 位</td><td>0 sp</td></tr> </table> 猫くんの動作をこまやかに描写したところが良さと読みました。 ほんとに人の言葉が理解できる猫のようで、そこがかわいい。鳴き声ひとつ立てないで表情だけだから、よけいにいとおしく感じます。いきなり人語なんか喋られたら興ざめでしょう。 「だって家族なんだから!」、少女のセリフがせつない響きを残してブロンズ・メダルの共感をいただきました。おめでとう!!	14 pt	3 位	0 sp
14 pt	3 位	0 sp			
A10	無題（辛いの手）	<table> <tr> <td>8 pt</td><td>4 位</td><td>1 sp</td></tr> </table> ペペロンチーノでしょうか。 1コだけでもバクダンですよね、あいつは。 日常のあるある体験、実感がひりひり伝わってきます	8 pt	4 位	1 sp
8 pt	4 位	1 sp			

		す。 特別賞：辛いで賞（からくてつらいから） イチオシフレーズ：「ツメが甘かった」
A11	彼女が淹れお わったコーヒー を……	0 pt11 位2 sp 彼と彼女と彼女の彼。いびつな人間関係が、巧みな心 情描写であぶり出されてきます。 このあとを読んでみたい！がTAさんたちからのリクエ ストでしたけど。 それにしても、「帰ったら殺すわよ。」って、みなさ ま、そんなにも言われてみたいフレーズなのですね。 最多イチオシフレーズ・タイです。めもめも>婦女子 のかたがた。 特別賞：タイトルが長いで賞、タイトル長いで賞 イチオシフレーズ：「帰ったら殺すわよ。」×3
A12	矛か盾か	21 pt1 位0 sp ラストは三題噺仕立てで。 身近な話題からさくっと入って、ラストを重たく。ひ とつひとつの問いが、さくりさくりと刺さってきます。 「僕はわからない」のリフレインが、作者さんの飾ら ない率直さを伝えて、より深い思索へと誘ってくれる 今週の裏表紙でした。 みんなの琴線に大ヒットでゴールド・メダルです、お めでとう!!! イチオシフレーズ：「矛なのか、盾なのか。」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	ピカピカの爪	3 pt9 位4 sp 初恋気分？ いやいや「手をつないでもチクチクしない」 とあるから、この僕はn度目（ $n > 1$ ）と推定されま す。ほら、彼女だってバスケしながらマニキュアちゃん と塗ってるし、きっと大学生……ってことは実話！ 描写のあいまから、そうやって人間模様がしっかり見え ます。桜色のきれいなピカピカが輝く、しあわせ満開の 今週の表紙、みんなに憧れてもらって（？）最多特別賞 でした。 特別賞：ピカピカで賞（キクチのせいです） リア充は爆 発しろ賞（リア充ってやっぱり憧れる） リア充爆発しろ 賞（1 4 9 1 1 共同受賞） オカマ賞（本当に女なので しょうか。） イチオシフレーズ：「キクチク」		
B02	意外なお土産	13 pt2 位1 sp よく調査して、しっかり論理構成されている典型的正統 派です。 お土産が爪切り、ほうそれは意外だ、としっかり読者を 引き込んで、そのわけは……と定石通りの展開で、とん とんとたたみかけ、ラストを自分の考えでふわっと ふくらませて着地。 グッジョブでした。きっちり評価してもらえてシル バー・メダル、おめでとう!! がんばれ正統派！（→全員 向け） 特別賞：正統派！賞（正統派はみんなが好き）		
		0 pt11 位2 sp		

B03	無題（拷問）	ナチスを想起しました。いや、あらゆる戦争に憑きもののまがまがしさか。 悲劇をセンチメンタルに描くのではなく、まさに軍人らしくぱっきりとドライに描き、要点を衝いた言葉選びが、強い印象を刻みます。 言葉のつよさは今週のピカイチ。 特別賞：爪が甘いで賞（爪が甘かったから） ノーベル平和賞（戦争の悲惨さを後世に伝えているから）
B04	君のために僕ができること	3 pt 9 位 0 sp どんな場面なのでしょう。読み手それぞれに想像できそう。 なぜか植物人間状態の君、を想像してしまいました。スリーピング・ビューティ。いや、それではテンプレートすぎる。じゃあ、屋根裏部屋にひっそりと忘れられたフランス人形！ 特別賞：リア充爆発しろ賞（1 4 9 1 1 共同受賞）
B05	黒い爪	11 pt 4 位 0 sp ふだんは気づかないように、見ないふりをしているけれど、でも確実に日常のかたわらに存在している死の影。それを黒い爪という象徴に託しての骨太なストーリーテリング、あざやかでした。
B06	「爪」誕生物語	8 pt 5 位 1 sp よく探したなあ。このヘンな字。 言われてみれば、たしかに真ん中の割れたツメですね。 象形文字のおもしろさと戯れて、楽しい誕生秘話でした。 特別賞：よくでっちあげたで賞（世界観が独特） イチオシフレーズ：「爪－1」（→字が見つからない）
B07	無題（すりすり）	7 pt 6 位 1 sp 「すりすり」に大共感！ 「任された」という表現も、とても頼もしく響いてこちよい。 とても小さな光景をしっかりとつかまえた鋭い観察眼に拍手！ すりすりすりすり、イチオシフレーズ大賞です、おめでとう!! 特別賞：読みやすいで賞（4 位。読みやすい。スッキリしている。） イチオシフレーズ：「すりすりしちゃいます。」×7
B08	彼女はどれだけ彼を好きだったのか	0 pt 11 位 0 sp どれだけ？なんて分かるかあ！ なかなかにせつないシチュエーションですね、恋の女神候補生さん。さらりと新恋人に引き継いじゃうなんて、さすが女神候補生です。 でもって彼の主体性がなさすぎ、なんですけど、そこはお約束か。
B09	無題（ちょっと大人の）	5 pt 7 位 4 sp せいっぱいのけなげさ。乙女心のいじらしいカタチ。ぎゅっと抱きしめたくなるいっしょうけんめいさに満ちた仕上がりでした。 そのリアリティがみんなのツボ、光源氏やらロリコンやらと転がしてもらえて最多特別賞です。おめでとう！ 特別賞：それはアカンで賞（年の差いくつだ！）光源氏賞（光源氏が書いた？）字がかわいい賞（字がいい！）ロリコン賞（ロリコンやから）リア充爆発しろ賞（1 4 9 1 1 共同受賞）

		イチオシフレーズ：「君が大人になるまで待ってるよ」 「爪先立ち」
B10	飼い猫は傷つく 柱の気持ちには なれない	13 pt2 位0 sp おお、これはうまい！猫のなかの野性を、爪という象徴でみごとにつかまえました。 お昼寝のところで猫だと気づきます。でも気づいてなお楽しい心情描写でラストまで持って行かれます。 タイトルも洒脱に決まって、グレート！ みんな猫好きだなあのシルバー・メダルです、おめでとう!! 飼えるといいね、作者さん。
B11	始まりの爪先立ち	4 pt8 位2 sp ラブコメのはじまりはじまりい。 舞台は学園モノお約束の図書館。 「くしゃっと一撫で」恋の到来。 うきうきとかるやかな展開です。 それにしても、こんなに女性馴れしている小早川くん、いったいナニモノ？ 特別賞：作者の顔が見たいで賞（作者の顔が気になる。ホントに気になる）らぶこめ☆賞（他にない感じだったので。）リア充爆発しろ賞（1 4 9 1 1 共同受賞） イチオシフレーズ：「お礼が一番、その他は二番、三時のおやつはその後で良い」「ちんまい人」
B12	郷愁	23 pt1 位0 sp 夜に爪切ったら……おんなじこと、言われた人も多いのでは？ 小さく心のなかで反論しつつ、でもそうやって思い出すことが、すなわち「郷愁」。 なんかもう、ほんとうに自然になだらかに腑に落ちるつぶやきでした。タイトルでまとめた工夫もしっくりなじんだ今週の読み納め。みんなの郷愁をさりげなく誘って圧勝のゴールド・メダルです。おめでとう!!! イチオシフレーズ：「・・・信じるもんか。」「郷愁」